

# 数 学

## 【第1問】

以下の問いに答えよ。途中経過も含めて解答すること。

- (1) 2次元極座標を用いて  $r = 1 + \cos \theta$  で表される閉曲線を考える。ここで、実数  $r, \theta$  ( $0 \leq \theta \leq 2\pi$ ) はそれぞれ動径と偏角である。

(1-1) この閉曲線の周の長さを求めよ。

(1-2) この閉曲線の囲む領域の面積を求めよ。

- (2) 微分方程式  $(3x^2 + y^2) \frac{dy}{dx} = 4xy$  の一般解を  $f(x, y) = 0$  の形で求めよ。ただし、 $x$  の関数  $u$  を用いて、 $y = xu$  と置換して解け。

- (3) 実数  $x > 0$  に対してガンマ関数は

$$\Gamma(x) = \int_0^{\infty} e^{-t} t^{x-1} dt$$

と定義される。

(3-1)  $\Gamma(1)$  を求めよ。

(3-2) 以下を証明せよ。ただし、 $a$ は正の実数とする。

$$I(a) = \int_{-\infty}^{\infty} e^{-ax^2} dx = \sqrt{\frac{\pi}{a}}$$

(3-3) 次の積分を計算せよ。ただし、 $n$  は正の整数とする。

$$I_n = \int_{-\infty}^{\infty} \cdots \int_{-\infty}^{\infty} e^{-\sum_{i=1}^n x_i^2} dx_1 dx_2 \cdots dx_n$$

(3-4) 半径 1 の  $n$  次元球 ( $\sqrt{x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2} = 1$ ) の表面積を  $S_n$  と

する.  $n$  次元極座標において動径  $r$  と  $r+dr$  に挟まれた領域の体積要素は  $S_n r^{n-1} dr$  である.  $S_n$  をガンマ関数を用いて表せ.

- (4) 箱の中に赤い球と白い球が 4 個ずつ入っている. この箱の中から, 無作為に球を 1 個取り出し, 赤い球が出た場合は箱の中に戻し, 白い球が出た場合は箱の中に戻さない. この作業を 4 回繰り返すとき, 白い球が 3 回以上出る確率を求めよ.

## 数 学

### 【第2問】

3行2列の実行列  $A$  を  $U\Lambda V^T$  と分解することを考える. ここで,  $U$  は3行3列の実直交行列,  $V$  は2行2列の実直交行列であり,  $V^T$  は行列  $V$  の転置行列を表す. また,  $\Lambda$  は3行2列の行列であり, 実数  $\lambda_1, \lambda_2$  ( $\lambda_1 \geq \lambda_2 > 0$ ) を用いて

$$\Lambda = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$$

と書ける. 以下の問いに答えよ. 途中経過も含めて解答すること.

(1) 次の3行2列の実行列  $A$

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ \frac{\sqrt{2}}{2} & -\frac{\sqrt{2}}{2} \end{pmatrix}$$

に対して, 以下の問いに答えよ.

(1-1)  $AA^T$  の固有値 ( $\omega_1 > \omega_2 > \omega_3$ ) と対応する固有ベクトル ( $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ ) を計算せよ. また, 固有ベクトルが互いに直交することを示せ. ただし, 固有ベクトルは正規化して示すこと.

(1-2) (1-1) で求めた固有値  $\omega_i$  ( $i = 1, 2, 3$ ) および固有ベクトル  $\mathbf{u}_i$  の組のうち, 0 より大きい固有値に対応する固有ベクトルを用いて, ベクトル  $\mathbf{v}_i$  を  $\mathbf{v}_i = \frac{1}{\sqrt{\omega_i}} A^T \mathbf{u}_i$  と定義する.  $\mathbf{v}_i$  は互いに直交し, それぞれの大きさが 1 であることを示せ.

(1-3) 与えられた  $A$  に対し,  $U, \Lambda, V^T$  をそれぞれ求めよ.

- (2) 一般の3行2列の実行列  $A$  は、(1)と同様の手続きに従い、 $U\Lambda V^T$  と分解でき、 $U$ ,  $\Lambda$ ,  $V^T$  は実行列となることが知られている。ここでは、簡単のため  $AA^T$  が3つの異なる固有値を持つ場合について考える。まず  $U$ ,  $\Lambda$ ,  $V^T$  がそれぞれ実行列になるためには  $AA^T$  の固有値は全て非負となる必要がある。また、 $AA^T$  の固有値のうち1つは0となる必要がある。実際に、 $AA^T$  の固有値は全て非負であり、最小値が0であることを示せ。